

# 私と昆虫

三木安貞

昭和49年8月末姫路市立科学館に虫の名前鑑定依頼に訪れたのが同好会に加入出来たきっかけです。同好会会員の一員として参加出来たことを心から喜しく思っております。

私は子供の成長に伴い5年前の夏休みに子供と虫取りに出かけ、この世界に首をつ込むことになったのです。それ以来、尋ねる友もなく、ただ昆虫館、科学館の標本、図鑑を見て自己流に標本を作り便覧で子供と共に名前を探し一人淋しく採集を続けていたのです。それゆえ採集出来る良い場所も知らず、行動範囲も限っておりました。そこでまず、郷土の昆虫から集めようと考え郷土の甲虫類を採集している段階です。

今、私は多くの先輩、良き友を得非常に喜んでおります。今後は皆様方の良き御指導を得、良き友になり同好会の一員として永く付き合っていきたいと考える次第です。

よろしくお願い致します。

## 《食草》①—カンアオイ

家永善文

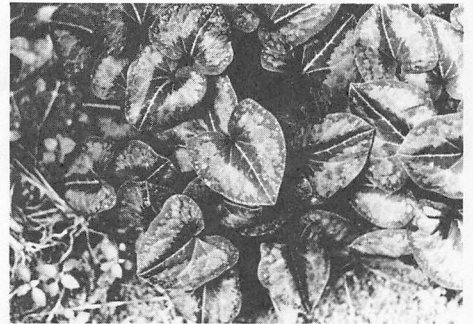
多くの動物は植物を食べている。動物の食生活は好き嫌いがはげしい。オーストラリアにすむコアラはユーカリを食べる。というよりユーカリしか食べないといった方がよい。それもコアラの種類によって食べるユーカリの種類もちがうという。

昆虫の好き嫌いもまたはげしいものだ。だから植物を保護しないと昆虫たちを保護することができない。それもどの植物でもよいわけではなく、昆虫たちの好きないろいろな植物が育っていなければいけない。スギやヒノキの植林地よりも自然のままの雑木林の方がいいわけだ。

今回は、春の女神といわれるギフチョウの食草であるカンアオイ類について記してみる。

カンアオイ属の分類は大変むずかしい。また進化の研究材料にもなり、植物学的にも問題多い種類である。

北半球に約100種類が分布している。日本には約40種(うち変種が10種)が、また兵庫県には6種類が知られている。県内に分布する6種のうち、ウスバサイシン、アツミカンアオイは但馬地方に、またナンカイアオイは淡路の南部に分布するもので、播磨地方にはフタバアオイ(船越山、山崎町、安富町、一宮町などに分布)、ミヤコアオイ(竜野市、相生市、上月町、山崎町などに分布)とヒメカンアオイ(東播磨六甲山、三田市、丹波地方などに分布)の3種が分布している。ギフチョウで有名な雌岡山のカンアオイはヒメカンアオイである。また、カンアオイそのものは、関東から中部地方に分布するもので近畿地方には分布しない種類である。



ミヤコアオイの葉はふつう大きく、白い模様があって美しい。ヒメカンアオイの葉は円形。フタバアオイの葉も円形に近い。徳川家の紋「三つ葉葵」は、フタバアオイの葉を3枚描いたものである。

カンアオイは陰地を好む植物で、名前の通り早春、濃い茶色の花が土に接して開くが目立たない。花には特有の匂いがある。花には花卉がなく、がく片が花卉のようにみえる。栽培はいたって簡単である。庭の木の下に植えてもよいし、鉢植えにしてもよい。光の量、肥料、水やりなどによって葉の形や色つや、模様がちがってくる。山草栽培としても興味がもてるものである。

\*参考文献：建部恵潤「兵庫県産カンアオイ属の検討」(兵庫生物) VOL.7 No.1